

未来をつむぐ「明日の京都」ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 山城

日 時： 平成 21 年 7 月 26 日（日）14:00～16:00

場 所： パルティール京都

登壇者： 山田 啓二 京都府知事
久保田 勇 宇治市長
橋本 昭男 城陽市長
久嶋 務 向日市長
小田 豊 長岡京市長
明田 功 八幡市長
石井 明三 京田辺市長
河井 規子 木津川市長
真鍋 宗平 大山崎町長
坂本 信夫 久御山町長
汐見 明男 井手町長
奥田 光治 宇治田原町長
松本 勇 笠置町長
堀 忠雄 和束町長
木村 要 精華町長
手仲 圓容 南山城村長
竹葉 剛 京都府立大学学長、「明日の京都」ビジョン懇話会座長
土山希美枝 龍谷大学法学部准教授、「行政運営の基本理念・原則
となる条例」検討委員会委員
多胡 歩未 木のおもちゃ作家【ゲスト】

○司会 会場の皆様、改めましてこんにちは。

午前中は激しい雨が降りまして心配しておりましたが、この時間には太陽が顔をのぞかせています。長い梅雨も間もなく明けるのではないかなという、そんな感じがいたします。

本日は、日曜日のいろいろと御予定のおありになるところを、ようこそお越しくできました。府民交流会、ただいまから始めさせていただきます。

本日、進行役を務めます、私、植月百枝と申します。どうぞ皆様、よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、皆様に少しお願いがございます。

まず初めに、携帯電話でございますが、スイッチのお切り忘れございませんでしょうか。マナーモードにさせていただくか、あるいは電源をお切りいただくか、いま一度御確認くださいませ。

そして、皆様にお渡しいたしました資料の中にこのアンケート用紙を入れさせていただ

いております。同じ白い紙でございますので、ちょっとわかりにくいかもしれませんが、こちらのアンケート用紙を入れさせていただいてますので、どうぞアンケートに御協力をお願いいたします。

さて、京都府では、平成 22 年に計画満了となる新京都府総合計画などに基づく新たなビジョンづくりなどを進めておりますが、これらの検討に当たり、多くの皆様から広くアイデア、提案、御意見をいただきたく、府内各地で府民交流会を開催いたしております。本日は、京都府・山城地域の未来や京都府に望むことなどについて、会場の皆様から御意見をいただき、一緒に考えてまいります。会場にお集まりの皆様も、どうぞ積極的に御発言をお願いいたします。

それでは、ここで本日の府民交流会の進め方を少し御説明いたします。

まず、地域代表の方から発言をいただいた後、会場の皆様から御発言をいただきます。その折なんですが、私の方から「会場の皆様どうぞ」と申し上げますので、その際、発言を希望されます方は、手を挙げていただきますようお願いいたします。わかりやすく「はい」と、こう手を挙げていただきますようお願いいたします。手を挙げていただいた方の中から、発言の指名をさせていただき、係の者がマイクを持って伺います。そこでお名前とお住まいの市町村名をおっしゃってから、御発言をお願いいたします。

さて皆様、本日は特にテーマを設けてはおりません。どのような御意見でも結構ですが、できるだけ多くの方の声をお伺いするために、発言時間は1回1分から2分で簡潔にお願いいたします。また、これもできるだけ多くの方に御発言をいただくため、御発言の回数はお一人様2回までとさせていただきますので、御了解をお願いいたします。なお、指名した方以外の御発言、やじなどは、進行の妨げとなりますので、かたくお断りいたします。

本日の府民交流会の様子は、記録のため録音させていただくとともに、後日、京都府の広報テレビ番組で放送するほか、広報紙、ホームページなどで御紹介させていただくことがありますので、御了承くださいませ。

さあ、舞台の方、皆様に御登壇いただいております。

お待たせいたしました、ただいまから「未来をつむぐ『明日の京都』ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 山城」を開催させていただきます。

それでは、ステージ上の皆様を紹介させていただきます。

山田啓二京都府知事です。久保田勇宇治市長です。橋本昭男城陽市長です。久嶋 務向

日市長です。小田 豊長岡京市長です。明田 功八幡市長です。石井明三京田辺市長です。河井規子木津川市長です。真鍋宗平大山崎町長です。坂本信夫久御山町長です。汐見明男井手町長です。奥田光治宇治田原町長です。松本 勇笠置町長です。堀 忠雄和束町長です。木村 要精華町長です。手仲圓容南山城村長です。「明日の京都」ビジョン懇話会座長の竹葉 剛京都府立大学学長です。行政運営の基本理念・原則となる条例検討委員会委員の土山希美枝龍谷大学法学部准教授です。そして、本日のゲストスピーカー、木津川市で木のおもちゃをつくっておられます多胡歩未さんです。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は、京都府議会議員の皆様にも会場にお越しいただいておりますので、選挙区ごとにあいうえお順で紹介させていただきます。

宇治市及び久世郡選挙区の村井 弘様です。同じく村田正治様です。城陽市選挙区の奥田敏晴様です。京田辺市及び綴喜郡選挙区の尾形 賢様です。同じく上村 崇様です。木津川市及び相楽郡選挙区の島田正則様です。そして京都市伏見区選挙区の渡辺邦子様です。どうぞ皆様、よろしくお願いいたします。

それでは、府民交流会開会に当たりまして、山田啓二京都府知事からごあいさつ申し上げます。

○山田啓二知事 本日は、この「明日の京都」ビジョンの府民交流会に、本当に大勢の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、山城の各市町村長さん、本当に勢ぞろい、全員出席ということで、きょうおいでをいただきまして、本当にありがとうございます。

私、この府民交流会、既に4地区目でございますけれども、改めて山城地区というものの京都における位置づけというのを、これだけの市町村長さんが勢ぞろいし、そしてその中で山城という地域が、大変、今、近畿の中心として、京都の一番バイタルな部分として伸びていく。そしてその中で未来にとっても、非常に京都にとってはかなめとなる地域であるということを、私は実感しております。そして府民交流会、これから皆さんの御意見をお聞きするわけでありまして、同時にこれだけの市町村長さんとそろって京都の未来を考えていくことができるということを心からうれしく思いますし、感謝を申し上げます。

今、大変、経済問題とか雇用問題とか、非常に今の暮らし、今の生活の中で厳しい困難

に直面をしている時代であります。ちょっとおさまりましたけども、インフルエンザの問題もありました。それだけに 10 年先、20 年先のことを考えていくというのは、何となくそういう時期なんだろうか。特にこれから 8 月 30 日の選挙に向けて、今やこの国のあり方を問う一大イベントが行われようとしているときに、何となく 10 年先、20 年先を考えるとというのは、少々遠い世界のことを思うようで、実感がないことかもしれないというふうに私は思います。

しかしながら、こういう困難な時代だからこそ、こういう大きな問題が起きている時代だからこそ、私たちはやはり次の世代のことを考えて、10 年先、20 年先の夢を描き、ビジョンを描き、それに向かってみんなが力を合わせて進んでいく、そういう時代だというふうに考えております。私どもは、これから京都の行政を進めていく多くの府民の皆さんの思いというものを条例化していきたい、そして多くの府民の皆様の願いというものを、ビジョンという形に、見える形にして、そしてそれを皆さんとともに実現をしていきたいと考えております。

きょうはそのスタートとも言える日であります。どうか大勢の皆様、忌憚のない、これからの京都の、山城のそれぞれの地域のあり方につきまして、活発な御意見をちょうだいいたしますことを心から願ひまして、開会に当たりましての私のあいさつとさせていただきます。どうかよろしくお願い申し上げます。

○司会 山田啓二京都府知事がごあいさつ申し上げます。

なお、本来ですと、この場におきまして、各市町村長の方々から、まちづくりの課題などについて一言賜るところでございますが、時間の関係もございますので、皆様にお配りしていますまちづくりの状況の資料をもちまして、ごあいさつにかえさせていただきます。御了承くださいませ。

それでは、次に「明日の京都」ビジョンの概要につきまして、高嶋 学京都府政策企画部長から説明いたします。

○高嶋 学 高嶋でございます。御説明を申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

お手元の封筒の中に資料が入っておりますが、A4の横長で、右の上に 1 と書いてあります資料、京都府の「明日の京都」ビジョンはこうして検討していますという資料をごらんいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

京都府では、これまで 10 年間の京都府の総合計画であります新京都府総合計画、いわ

ゆる新府総と、そのうちの後半5年間の重点目標をあらわしました中期ビジョン、この二つの計画に加えまして、各振興局ごとにつくりました地域振興計画、これを基本として府政運営を進めてまいりました。これら三つの計画は、おおむね来年、平成 22 年をもちまして計画期間が満了することになっております。

そして、そこでそれらの後継となります計画づくりに、昨年の8月から有識者の皆様による会議を設置するなど、検討に着手をいたしました。新しい計画は、これまでの総合計画という発想を転換いたしまして、基本条例、長期ビジョン、中期計画、地域振興計画、この四つの柱でつくってまいります。

一つには、10 年ないし 20 年後の京都府社会のありたい姿、将来像を長期ビジョンとして描きます。次に、長期ビジョンを実現するための四、五年間の重点施策を府全体の中期計画、また、広域振興局ごとの地域振興計画、この二つの計画にまとめてまいります。そしてそれらとは別に、もう一つ基本条例がございます。長期ビジョンが、京都府は将来こうありたいという願いをあらわすものとすれば、基本条例の方は、世の中が変化をしても、決して変わることはない京都府政の基本的なあり方や原則を条例としてしっかり定めておきましょうというものでございます。

これら四つの条例やビジョン、計画につきましては、京都府政の将来にわたる基本的な柱となるものでありますので、最終的にはすべて京都府議会に御報告をし、御意見、御議決をいただいて成案とするものでございます。

以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会 高嶋 学京都府政策企画部長でございました。

それでは次に、「明日の京都」ビジョン懇話会座長でございます竹葉 剛さんから、「明日の京都」ビジョンについての思いを一言お願いいたします。

○竹葉 剛 皆さん、こんにちは。

府立大学学長の竹葉です。今回は、ビジョン懇話会の座長ということで務めております。どうかよろしくお願いいたします。

懇話会は昨年の8月に始まりまして、ことしの6月まで全体会議を7回開きました。そしてその後、分科会に分かれて議論を進めております。それらの内容につきましては、京都府のホームページに掲載されておりますので、そちらをごらんになっていただきたいというふうに思います。秋以降に、ビジョンの形をだんだん整理していこうというふうなス

ケジュールになっております。

本日は、そのビジョンの内容とは離れて、座長の思いをとにかく短く語れということで、私の意見を述べさせていただきたいと思います。

一つは、私は京都府の誇りというものを大切にしたいというふうに思います。誇りというのは、個人のレベルの誇りもありますけれども、その誇りを共有します地域とか市町村とか、それから府の誇りというのもあろうかと思います。お互いの誇りを大切にしながら、地域市町村の誇り、それから京都府の誇りというのを大切にしていきたいというふうに考えております。

二つ目は、これからは自分たちのことは自分たちでやろうではないかと、こういう機運を高めていくことが必要であろうというふうに思っております。税金を納めているんだから、政府、行政にすべてを任せて注文をつければいいんだという考え方もありますし、確かにそのことは大事なんですけども、それだけではやはり我々自身の身の回りのことを含めまして、やっぱりこれからの社会はそれだけじゃ不十分だろうというふうに思います。

知事さんのお話を聞きますと、地域の見回り隊が活動しているところでは、ひたたくりなんかの犯罪が顕著に減っているというふうなことも聞きます。ですので、そういうことを含めた地域の力を高めていくということが非常に大切ではなかろうかというふうに思いますので、自分たちのことは自分たちでやろうといった機運を盛り上げていきたいなというふうに考えております。

それから三つ目は、やはり昨年の秋以降、顕著になりました事柄ですけれども、派遣切りに遭いますと、その日から住む場所がないと、食費がないと。その結果、自殺したり犯罪に走ったりという、そういった状況が出てきております。我々は、これからそういうことのないような社会を目指していきたいというふうに思っております。

より断片的な内容ですけども、私の思いということで述べさせていただきました。

御清聴ありがとうございます。

○司会 それでは次に、行政運営の基本理念・原則となる条例検討委員会委員でございます

土山希美枝さんから、条例についての思いを一言お願いします。

○土山希美枝 どうも皆さん、こんにちは。

ただいま御紹介にあずかりました、長い名前の条例の検討委員会の龍谷大学の土山と申します。

私、こちらの検討委員会には、京都大学の高木 光先生を座長とし、副座長に立命館大学の佐藤 満先生がおられて、私は一員として検討にかかわらせていただきますが、きょうはこのようなお席にお呼びいただきまして、思いを少し語らってもよいということで、僭越ながら少々お話しさせていただきます。

お手元の資料の中では、No.2というふうになっておりますものがただいまの検討の中身でございます。この中身につきましては、どれも重要なことでございますけれども、まず最初に、なぜこの条例が今必要なのかと、行政の運営はこれまでもずっとやってきたではないか、京都府頑張ってきたではないか、なぜこういう条例が必要なのだろうかということを、私なりに少し補足させていただければと思います。

まずそれは、一つは、社会の大きな流れがあります。私たちの日本社会は、高度成長期に一度、それから高度成長期にでき上がった仕組みを変えようとしている、いま一度大きな変化の中にさらされてきています。

例えば雇用の問題、先ほどもお話ありましたけれども、雇用の問題は高度成長期にでき上がった正規雇用や終身雇用の枠組みが、今、大きく変わろうとしているところの苦しみのところで起こっている問題でございます。そのような中で、社会の大きな変動がある中で、自治体がやれることが2000年以来大きく変わりました。2000年に変わったときには、余り変えなくても、きのうと同じお仕事でやっていけた部分もありましたので、そのまま引き続き仕事をしてきましたけれども、約10年たって、その変わったことをうまく使って頑張っている自治体と、それからできるだけそのまま変わらないで運営をしていようという自治体に分かれてきてるように見えます。分権改革で、創意工夫で自治体がいろんなことができるというようになりました。それは裏を返せば、創意工夫でやる自治体とやらない自治体の格差が広がり得るようになってきているということです。

そういった中で、また、先般、知事からもお話がありましたとおり、9月から、世界の大きな景気の荒波に地域も大きく揺さぶられています。そういった社会の変わり目、自治体ができることの変わり目、そして私たちの社会を取り巻く大きな状況の中で、自治体とは何をするとするか、府民の皆様に何の役割を果たしていくとこなのか、そのことをもう一度確認するべきときが今やってきたのではないかというふうに思っているところでございます。

民でやることは民でというふうに、何代か前の首相がおっしゃいましたけれども、改め

てそれでは地域の自治体、府民の自治体としての京都府が何をしようとしているのかを明らかにしていこうと、これがその条例の目的だということになっております。

行政運営の基本的な方向性を明確化するなどといった、ここに書いてある理念の中身を見ていただければ、ある意味では当たり前なんですけれども、それを果たしていくために京都府が何をしていくかということを、私たちは検討していく必要があります。

その中では、府民と京都府の役割分担、それから地域を守る基礎自治体である市町村さんと京都府のあり方のことも、恐らくかかわり合いが出てくることだと思います。そしてそれは京都府だけが決めることなく、皆さんの声、京都府民、京都府でやっていることはすべて京都府の皆さんの資源で行われています。それを皆さんがどのような自治体になってほしいということをお伝えいただけるかどうか、それにこの条例がいいものになるかどうかの大きな要素がかかわってくる等ございます。

三つの基本理念、五つの基本原則は、どうぞぜひお手元でござんいただければと思います。また、きょうの議論を踏まえまして、私ども検討を深められていけたらと思っています。

よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

さて、本日は、ゲストスピーカーとして、木津川市で木のおもちゃをつくられている多胡歩未さんに御出席いただいております。

多胡さんのプロフィールにつきましては、皆様にお渡しいたしました資料の中、こちらに詳しくプロフィールを御紹介させていただいております。最後のところに、8月1日より産休に入りますと書いていらっしゃるんですが、実は多胡さん、おめでたで、8月が出産だそうでございます。

さあ、それでは多胡歩未さんに、ふるさとへの思いや、これからの山城地域に期待することなどお話いただけるのではないのでしょうか。

お願いいたします。

○多胡歩未 ただいま御紹介にあずかりました多胡歩未と申します。

座ったまま失礼させていただきます。

○司会 少し壇上の映像を使わせていただきます。

○多胡歩未 木津川市の加茂町で、木工房で木のデザイン制作をしている多胡と申します。

自分で考えてアイデアを出して、デザイン、制作するということをしております。活動紹介を兼ねて、ざっと作品の説明をさせていただきたいと思います。

かせきごっこという名前の、まず最初にあるんですけども、こういったものでして、ブロック、積み木のような角額のものに人間の形が彫られていまして、四つ組み合わせると人間の形になるものです。そこに人形さんをはめ込んであげる、人間いろんなポーズができるんだよというものなんですけども、積み木遊びの中に組み込んだり、立体に起こしたりして、三次元まで長いこと、最終的には小学校へ入っても遊べるような、高度な遊びができるようないわゆる積み木なんですけども、そういったものです。人間はいろんなポーズができるんだよということを遊びにしてみたくて、本来は自分がはまりたくて考えたものなんですけど、ちょっと余りにも大き過ぎて無理だということで、人形にやってもらうことにしました。

次はスレンダーブロック。これは、筒と棒の組み合わせで、いかようにも組み立てられるブロックなんですけども、立て穴はすかさず、横穴が窮屈になっておりまして、穴はねじれの位置にあいておりますので、結構、頭を使います。男の子にはすごく人気で、御家族で遊ばれると、お父さんがはまったりしています。出したり入れたり、この筒の中に棒を出したり入れたりして遊ぶことから始めて、音を出したりしているうちに、組み合わせる数が2本からだんだんふえていって、自分の身長よりも大きなものを組み立てたり、すごく複雑な高度なブロック遊びができるようになるまで、これもずっと大きくなるまで遊んでいる子が多いです。

次はクォーター親子。これは球体がぱかっと割れるとおもしろいんじゃないかなというのでつくったものなんですけども、バランスよく立たせてあげると、こういうふうに立っているんですけども、バランスを崩すと、押したりするとぐしゃっと倒れる、つぶして遊んだりできるものです。振ったりすると、木と木が触れ合ってカタカタ音も鳴りますし、インテリアにもなりますし、これはもう小さいころから、赤ちゃんのときから手で持ってもらって、大きくなっても大事にもらって、最終的にインテリアにもしていただけるようなものなんですけども。これは制作に苦労した作品の一つで、ドイツの師匠にも一度はあきらめろと言われたこともあります。

苦労というのは、この構造の問題なんですけども、これ、今、つるつるの床の上で頭をちゃんと押すと、ずるっと開くんです、こういう状態に開くんですけども、当初は開かな

いんですね。この構造ができるまでに大量の試作も時間も費やした、苦労したものです。

次はフスフスです。フスというのは、ドイツ語で足のことで、足足という意味になるんですけども、動物はそれぞれ足の形が違って、それぞれのライフスタイルに合った形をしているんだよということを遊びにしてみました。足は四つセットになっているんですけども、足をつけ外して、つけて入れかえて遊べます。これ、足が全部取れるんですけども、こういうふうに違う足、動物に違う足をつけて、指先を使う訓練にもなりますし、お人形さんごっこもできますし、いろんな発見ができると思います。これは、ある日、自分の足の裏を見ていて思いついたんですけども、自然や動物の営みに興味を持ってほしくて、これがきっかけになって図鑑を調べたり、いろんなことに興味を持って、たくさんの知識を身につけてもらえればなと思っております。

次はついくつあくばんぴーと呼びます。だんだん名前がややこしくなってきましたけども、ツイクツァクというのはドイツ語でくねくね、バンピーというのは英語ででこぼこという意味で、くねくね・でこぼこな子たちなんですけども、台形のブロックですね、これは。1個ずつが台形のブロックでできてまして、これがひもに通してあるだけで、ブロック一つ回すとこういうふうに。さっき真っすぐだったのが、曲がったりして、体の形が変えられるものですね。これがこういうふうに全部ひもで通っているだけなんですけども、違う色も入れることができますし、バランスにとって座らせたりすることもできますし、ひも通し遊びして遊んでいただけたりします。単純な形と構造ですけども、いろんな表情が楽しめて、握っているうちにどんどん形が変わってきて、1人遊びとか、大人の方が考え事をするときとかに、握りながら試行錯誤するのにいいんじゃないかと思います。

これはポリールタン、次ですね。こういうものなんですけど、複数でがやがや大騒ぎという意味なんですけども、これを見ただけでどんなふうに華やかなのかがわかる方っていらっしゃるかな。これ動くんなんですけども、動きのわかる方というの。いろんなレイアウトを好きにさせていただいていいんですけども。これちょっと動きの画像がありますので。これをこう1個回すと、くるくると全部回る。今、これ5連ですけど、8連とかにしても回ります。こういう動きをするものなんですけども。

これですね、これは今8連で、これは最近の無表情な子たちを見て、生活にもっと刺激を与えてあげたいなという思いからつくったものなんですけども、今、こう動いてるのを見て、目から来る視覚的な刺激と、耳から来る聴覚的な刺激と、それを回すことによる動

作で脳がもっと活性化されればなというコンセプトなんですけども、これは大人のかたい頭にもいいんじゃないかと思います。子供たちはこれを見ると、まず二、三歳の子は、目が点になって凝視していますね、全部ぐるぐる回るんで。1個目を回しただけで8個目が回るとというのがすごく不思議みたいで、ずっと回してるとずっと見てます。もうちょっと大きくなると、本当にがしゃがしゃ回して楽しんでますね。これは、泣いている子もすぐ泣きやむような驚き。

木を纏うシリーズというものがあまして、このシリーズは、おもちゃではなくて、日常、身近に携帯できるものなんですけども、このシリーズは現代社会の中で日常的にもっと木を身近に感じてもらいたいという思いから生まれたものでして、私、木津川市の加茂町で生活しているんですけども、加茂町で生活していると、自然の中で生きることというのはごく当たり前のことでありまして、私たちにとってはそれは当たり前なんですけども、それにもかかわらず遠方からその当たり前を求めてやってくる人たちが本当にたくさんいらっしゃるって、自然の恵みや豊かさを身近に感じられない生活が、もう余りにも寂しく思えるので、せめて日常の中に木を感じてもらえるような提案をしようということで作ったものなんですけども。インテリアの小物とかバッグとか、これハンドバッグですね、これポシェットです。これはカードケースとかなんですけども、こういうものを、持ち運べるもの、木を身近にまもっていただければというコンセプトでつくっております、木には一切の着色はしていなくて、先ほど紫色のバッグがあったかと思いますが、それも紫色の木を使っておりまして、着色は一切しておりません。木そのものの色や質感や木目を出すようにつくっております。

おもちゃの方の着色ですけども、あれは水性の着色料にシェラックコーティングというものをしまして、シェラックというのは食用に使われている、薬のカプセルですとかおもちゃ、チョコレートですとかつやつやコーティングされていると思うんですけども、それと同じものですので、口に入れても安全なようには計らっております。

ざっと紹介させていただきましたけども、私が制作しているものは、そんな感じのものです。制作活動の原点やライフスタイルとしては、自然に寄り添っていきながらも、自然を楽しむことをモットーに私は生活しております。人間が自然を保護するというのは大変おこがましいと思っております、私は自然の中で生かしてもらっているというふうに常日ごろ感じているんですね。だからその中で生きていきたいのであれば、それを汚すこと

なく、自然に寄り添って楽しませてもらえるような、こちらから害のない人間になるべきだと思っています。

最近、どこでもエコが叫ばれるようになりましたけども、一番の要因である大量消費型のスタイルを変えない限りは、小さな努力はなかなか芽を出さないのではないかと思います。経済のエコは大変大切ですけども、この大量の消費スタイルを変えるだけで経済のエコというのはおのずとついてくると思うのは私だけでしょうかね。有機溶剤や石油製品や化学物質にまみれた生活をちょっと見直すだけで、自然に与えるダメージを激減させることはできると思います。これは、日常生活の皆さんの家庭の中にあり得ることですので、1人の小さな努力が大きな結果を生むと思います。そういうことをするには、大々的な改革的な政策が必要なわけでも何でもなくて、個人の意識レベルの話で済むことだと思います。

おもちゃの修行時代に、私はドイツに2年半住んでおりましたけども、人々の意識レベルの差にはやはり驚かされます。ヨーロッパで当たり前に行われていることが日本では浸透しておりませんし、例えば飲料の瓶、リサイクル瓶ですね、向こうはスーパーに傷だらけの汚いリサイクル瓶が普通に並んでおりますし、ペットボトルはほとんどない、缶は皆無ですね。ペットボトルも、ほんのごく一部で、ペットボトルもリサイクルされます。あと、レジ袋なんてありませんし、向こうは全部有料で、大概かごとか持ってお買い物に行きますし、そういうのが最近になっては、ようやく少しずつ日本も取り入れられているかなと思えるようにはなりましたけども、これは原油価格の高騰や不景気がきっかけかなとも思えます。それがなかったら、まだそういうふうにはなってなかったかなとも思えます。もっともっと生活の中のむだを省けば、勝手にエコにつながると思えてなりません。

今のこの環境は、確実に次世代に継がれていくものです。大人の取り組みは、子供たちに受け継がれます。決められたことしかできない子供たちがふえていると言われているんですけども、自分自身で考える力や想像力や行動力を養っていけるような社会があれば、次世代もまた明るいのではないかと思います。たとえ今の大人たちから自然とともに生きるノウハウを学べなかったとしても、みずから考える力を養っていれば、同じ過ちが繰り返されることはないかと思います。私は、自分の作品たちがそんな社会や考えることのきっかけになってくれればなという思いで制作しております。私もこんなおなかで出産が近いんですけども、自然に寄り添って楽しく生きることを教えていきたいと思っています。

幸い加茂町には、そこらじゅうから幾らでも学べるので、感謝しつつ、川遊びやカヌーを初め、四季折々の変化を感じながら、幼少の体験から身をもって知識を得てほしいと思っています。自然とともに生き、次世代を育てる社会が明るい未来をつくり出すと思います。

以上になりますが、私からのメッセージとさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 多胡さん、ありがとうございました。

作品の紹介とともに、環境問題などお話をいただきました。

さあ、それでは多胡さんのお話を受けて、少し感想などを、まず知事からお願いできますでしょうか。

○山田啓二知事 本当に大変楽しいおもちゃを見せていただきまして、こんなおもちゃが身の回りにあったら、子供たちもうずっととりこになったまま遊んでいるだろうなというふうに思いましたけれども、やっぱりとりこになる一つの要因として、何ていうんでしょうかね、人に対する優しさみたいなものをすごく感じました。もともと全部が木でできている、自然のものでできているおもちゃ。

何年か前に、世界の七不思議を選ぶという、新世界七不思議を選ぶという試みがあったんですけども、その中で清水寺が日本で候補になったんですね。そのときの売りというのが、世界の七不思議の候補の中で、唯一自然のもの、有機物、木でできている七不思議の候補は清水寺だけだったんですね。あの清水寺の舞台は、くぎ1本使ってませんから、まさに木だけでできている。そうしたものは、やっぱり昔から日本人の知恵で、そうした環境と共生して、環境と優しくしていく中で、これからの次の世代に残していく、難しい言葉で言えば持続安定型社会というものをづくり出すきっかけになっていく、そういう知恵というのは、やっぱり京都からもこれからも出していかなきゃいけない。これは、先ほど竹葉学長からおっしゃった京都の誇り、京都の力というものにも通じるものだなというふうに思います。

もう1点だけ、あのおもちゃを見ていると、自分で工夫して、自分で考えて、そして自分でまた新たに広げていけるおもちゃやなというふうに思ったんですけども、これはやっぱり私たちがこれから地域の中で一番やっていかなきゃいかんことじゃないかなと思っています。だれかにこういうことをやってもらえとか、こういうことをしてあげると、

ずっと言われて何かやっていたら、いつまでたっても私たちは主役になれない。

私は、今のおもちゃを見ると、まさに子供たちが自分が主役になれるおもちゃじゃないかなという感じがしておりまして、このことは実は少しこじつけめいて申しわけないんですけれども、私たちがこれからあすの京都でやるときに、主役というものは一体だれなんだ。その主役の人たちが考えて行動して、そして次の世界をつくり上げていけるような、そうしたものが私たちは、今、先ほど多胡さんのメッセージの中からいただけたんじゃないかなという気がしました。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

さて、多胡さんは木津川市加茂町にお住まいというお話をされておられましたが、こういった作品は自然の恵み、豊かさの中から生まれたんだということなんですが、地元の河井市長さん、何か御感想などございましたらお願いいたします。

○河井規子木津川市長 今、多胡さんのお話を聞かせていただいて、本当に感動したのは、自然の中に生かされている、自然とともに生きていくという、そういった思いがすごく伝わってきました。

今、お話のあったように、ドイツに勉強に行かれ、そして今、自然の中で自然の空気、また人の温かさを十分感じられて、こういったすばらしい作品、おもちゃが生まれてきているのかなというふうに、今、つくづく感じさせていただきました。

子供たちは、やはり成長していくためには、たくさんのおもちゃや人とのかかわり、経験を通して大きくなっていくわけですけども、やはりこういった温かいおもちゃ、そして創造力のあるおもちゃを子供たちが本当に身近に持てるということは、本当に幸せなことだなというふうに思います。

ちょっと私も孫と一緒に住んでおりますが、家にたくさんのおもちゃがあふれておりまして、ちょっといろいろ反省をしたところもございます。これからは、多胡さんのこういった温かい、優しいおもちゃに触れていけるような機会をふやしてあげたいなというふうに思いました。

多胡さんは、多胡さんのつくられたおもちゃ、とても子供たちがやっぱり大切にされてるということを私もお聞きしましたので、本当に多胡さんのやはりこういった愛情あふれる、そういった思いがおもちゃの方にも浸透しているのかなというふうに思いました。

もうすぐママになられるということですので、またママになられて、自分の大切な子供さんへの思いで、またすばらしい発想のおもちゃがたくさん生まれてくるのかなというふうに楽しみに思っております。

多胡さんは、こういった地道な活動、またこういったすばらしいおもちゃを世界に広げていきたいという夢を持っておられるということですので、私もそういった夢に向けて何か手助けができればなというふうに思っております。

きょうはすばらしい御紹介、ありがとうございました。

○司会　ありがとうございました。

多胡歩未さん、ありがとうございました。

さて、会場の皆様、ここからはあらかじめ発言をお願いしております地域代表の方から、未来の山城地域への期待、京都府に望むことなど、御意見をいただきたいと存じます。

最初に、宇治青年会議所理事長の山本卓治さんから御意見を申し上げます。

○山本卓治　ただいま紹介にあずかりました、社団法人宇治青年会議所理事長を務めております山本卓治と申します。

平素は、青年会議所運動に際しまして、何かと御支援、御協力を賜っておりますことを、この場をおかりいたしましてお礼を申し上げる次第でございます。

我々青年会議所といたしましては、この山城地区におきましては、約四つの青年会議所で活動を進めております。我々青年会議所は、日々、本当に地域のこと、また地域で暮らす方々と連携をとり、また地域の行政の方々と連携をとりまして、何かこの地域でできることはないかと模索しながら、日々会議を重ね、地道に運動、また勉強をしております。

そんな中、我々青年会議所のような団体が、今回、公益法人の制度改革に伴いまして、新たな公益法人格を取得することとなっております。そんな中、各青年会議所でも、取得に際しまして準備を進めているわけですが、その取得を目指す中で、何かとさまざまな基準を、今までの運営ではなかなかいかなない部分、また基準をクリアしなくてはいけない部分がたくさん出てまいります。

そんな中、青年会議所といたしましても、今までの活動を衰退させるわけにもいかない、また、そういった新たな公益法人格を取得して、さらなる地域発展に寄与していきたいというふうに思っているところではございますが、そういった各種団体、また組織への京都府政さんとされまして何か補助金制度であったり、また事業実施に際しましての優遇措置

であったり、そういったものが何かもし計画がございますようでしたら、何か御意見をちょうだいしたいのですが、よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

それでは、ただいまの御意見に対しまして、知事から一言お願いいたします。

○山田啓二知事 これからのやっぱり京都府づくりを考えたときに、今、何か選挙でも地方分権というのがすごく、隣の知事さんもすごく張り切って頑張ってくれて、地方分権、地方分権言うて、宮崎の人も言うて、大変、選挙でも話題になっているんですけども、そのときに地方分権いうて何だろうというとか、なかなかみんな語ってくれないところがあります。

私は、一番、地方分権という言葉がひとり歩きしていると思うんですけども、大切なことは何かというと、今までの地方分権という言い方で言っているのは、例えば国から地方へ権限を移せとか、財源を移せとか、それから京都府から各市町村へ権限、財源を移せとかいう、地方の公共団体と国との間の権限とか財源の問題になってきたわけですね。

そうすると、多分、住民の皆さんから見たら、国がやるか地方公共団体がやるかだけみたいな話になってますので、どちらでもええやないかと、うまくやってくれたらいいでしょうというふうにしかならない。だから、地方分権というのは余り話題にならなかったという気がしています。

でも、本当の地方分権の一番大切なことは、この国が、先ほど土山さんのお話からありましたように、高度成長のころにはみんなもうかってきて、ずっと税収が上がって、それをずっと地域に再配分していたわけですね。それが一番大きな流れだったんだけど、そういう時代じゃなくなったときに、本当に必要なのは、これからこの国が頑張っていくためには、国民や住民の一人一人が、自分の持てる力をどうやって発揮できるんだろうか、それから、これから高齢化時代を迎えたときに、どうやったらこの時代でみんなが幸せに暮らせるんだろうかということを考えたときに、一人一人ができること、一人一人が自分だったらこれができるよということを寄せ集めて、それを団結の中でつくり上げていくことが、実は一番求められているんだと思います。

もうこの国、そうじゃなければ、国に任せといたら 800 兆円の借金があるし、地方公共団体だって 200 兆円の借金があるんですね。そうではない。ですから、私たち地方公共団体も、これからあすの京都を考えるときには、それぞれ地域で頑張っている人たちをどう

やったら支えることができるんだろかということが、本当は地方分権では、一番、私は必要なことだと思っています。つまり、地方分権で必要なのは、我々ここまでできるんだけど、ぜひとも皆さんもここまで頑張ってもらえませんかをお願いをしていかなければならないと思います。

でも、それをお願いをするときに、霞ヶ関にいる人たちや皆さんにお願いしたって、皆さんからすると遠くの人ですわね。皆さんが、多分お願いをされたときに聞いてやろうかと思うのは、自分たちが選んだ首長さんであり、議員さんからだと思うんですね、私は。そこから言われたら、ちょっと頑張ったろかみたいなふうに思ってもらえるんじゃないか。そういうことが、本当は地方分権の一番必要性じゃないかな。だからこそ国で決めるのではなくて、地域の人たちと私たち、きょうも 15 人の首長さん並んでますけども、その人たちの話し合いの中で決めていく。そして、その時代においては、今、山本さんから話がありましたように、各地域で若い人たちも高齢者の皆さんも頑張っていらっしゃる。それをどうやったら支えることができるんだ。

補助金優遇措置という問題は、別に私たちが皆さんにお渡しするんじゃない。だって、もともと皆さんからいただいた税金をどうやって使うかの話なわけですから。だからこそ、山本さんたちJCが物すごく地域のために頑張っていたくんだったら、それを支えるために優遇措置やさまざまな支援策を考えるのは、もうこれは我々の務めだと思っています。

ですから、私どもも、ことしで3年目になりますけども、地域力再生というのを今、積極的に活動しておりますし、ことしはさらにNPOのファンドというものをこしらえて、NPOの皆さんがさまざまな事業をするときに融資を低利でやれるようにしていきたいと思っています。ほかに、農商工の連携のファンドもありますし、コミュニティビジネスのファンドもあります。それだけではなくて、さまざまな制度で、住民の皆さんが動きやすい京都をつくれるようにしますので、ぜひとも山本さんも頑張って活動してください。それを支えられなかったら、やっぱり京都府も市町村もあかんということだと、私は思っています。

○山本卓治 どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

では、久保田宇治市長からも、一言コメントをちょうだいいたします。

○久保田勇宇治市長 ありがとうございます。青年会議所、山本理事長さん、本当にありが

とうございます。

今、知事の方からは、分権という形の中での今後のあり方、いろいろありました。最近、マスコミ報道を見ていると、全国に知事さんは2人しかいはらへんのかなと。名前は言いませんけども。しかし、全国知事会、これは全国市長会、全国町村会もそうでありますけども、一番身近な市町村で、地方自治体で、自分たちの地域の特徴をしっかりと生かして、自分たちで決めて、自分たちで責任を持って運営するということの仕組みに変えていくという動きを、地方はすべて望んでおります。

そういった中で、山田知事、知事会の分権の委員長さんであります。テレビには名前余り出ませんが、一生懸命、知事が分権という形で、知事会で一生懸命旗を振ってはいるということだけは御紹介しておきたいと思います。

あと、山本さんの方から、公益法人格の取得なりが出ました。これ非常にハードル高いと思いますけれども、頑張って取得していただきたいと思います。

私ども、今、ほとんどの地方自治体そうありますけれども、団体ができたからといって、団体の運営に補助をさせていただくということとはごくまれなケースです。ほとんどが、その団体がどんな事業をされるかということに対して、事業に対して支援をさせていただく、御一緒に行政と手をつないでするという形が、今の時代にはふさわしいかなというふうに思っています。子育てや医療や福祉や地域づくり、いろんな形でお取り組みをされています団体と、これから行政が手をつないでいくということ、お互いパートナーとしてやっていくということが一番大事だというふうに思います。

先ほど、京都府の基本条例の中で、府民としての誇り、そして自分たちのことは自分たちでやる。私は、まさにこれ地域力を高めるということであるというふうに思っています。

その中で、青年会議所の皆さん方、本当にありがたいのは、歴代理事長さんなり青年会議所の皆さん方が、各行政に政策提言をいただいています。特に私ども宇治市は、観光地も一つの大きな売りでございます。おかげさまで源氏千年紀、昨年は源氏物語ができて1000年ということで、大いににぎわいました。観光客、年間500万人という計画も、2年早く550万人を突破いたしました。

しかし、次、これは私ども、やはり先祖さんがしっかりと名声を高めていただいた南山城全体としての宝である宇治茶、これをしっかりと振興していくこととあわせて観光面、やはり今、国としても観光立国を考えております。宇治市としても、一つは源氏という大き

な柱に加えて、さらに一昨年発見されました、豊臣秀吉が400年前に築きました日本の河川土木の原点とも言えるべき太閤堤、単に史跡保存、これは史跡保存をしっかりとやることも大事ですけども、それプラス、これを新たな観光拠点、「秀吉と茶の湯」というふうなテーマも含めまして、このことを将来に向かってやっていきたいと思います。

特に青年会議所の皆さん方、毎年200人以上の市民が、かなり長い間、練習をして参加していただきます宇治大田楽、これを平安の昔、1000年時代に宇治が発祥の地と言われておりますけども、これを会議所の皆さん方が提案をして、そして実行委員会にも入り、手づくりで宇治の本当に伝統芸能として復活をしていただきました。今後も、こういうふうにいろんな方に提案をしていただいて、そのことを行政が手をつないで一緒に取り組んで、地域振興なり、また市民、府民の満足といいますか、誇りにつなげていくということが今後大事だというふうに思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

○司会　ありがとうございました。

それでは、次にやましろ地域熟年営農チャレンジ塾第一期生の青山洋子さんから御意見ををお願いします。

○青山洋子　よろしくお願いします。

チャレンジ塾一期生として、19年9月からことし2月まで、基礎コース、実践コースを受講させていただきました。初めての経験ではありましたが、農業の基礎から実践まで、普及センターの先生や農業の先生方に教わり、また、塾生の方々とも情報交換をしながら、そして苦心してできた農作物を交換したりと、振り返ればすばらしい仲間との楽しい1年半でした。少しではありましたが、農作物をJA直売店に出させてもらい、買っていただけたのも励みになりました。

塾を終え、営農ということで4人でファームを立ち上げました。農地を借りるということもなかなか大変なことでしたが、山城振興局、農業の先生のおかげで借りられ、ゆっくりではありますが、収穫も始まっています。まだ試行錯誤をしながらの状態、もっと勉強をして、きっちりといいものをつくる努力ををして、直売店に出荷していますが、もう少し近くで身近に出荷販売できるところがあればと思いますし、そういう支援をしていただければと希望します。

農業に携わり感じることは、考えもつかない労力を必要とし、時間を要すること。気象

条件に左右され、自然にはかなわないこと。それでも土を耕し、芽が出る喜び、収穫物を手にした感覚はこの上ない喜びです。安心・安全・おいしいものをつくり、地域の方々に提供できる農地・販路を含む地消治産の環境をもう少し広く整えてもらえれば、農業を始めたい人の関心がもっと高まるのではないのでしょうか。

よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

さあ、それでは山田知事と木村精華町長にコメントをちょうだいいたしますが、申しわけございませんが、コメントは手短にお願いいたします。

知事さんからお願いします。

○山田啓二知事 時間がないみたいなので、済みません。

本当に団塊の世代の人たち、14 人集まって、第1回の地域熟年営農チャレンジで、本当に大きな成果と申しますか、実施いただいてありがとうございます。

これから、お話がありましたように、やっぱり地産地消は大切ですし、子供たちに地域のものを食べてもらいたいということをずっと市町村長さんたちともやっておりますし、さらに地域の人たちが本当に新鮮な野菜に触れられることができる、農作物に触れられることができる、これはやっぱり暮らしていく一番大きな喜びじゃないかと思っておりますので、朝市のネットワークとか、こういったものもしっかりとつくり上げていきたいなというふうに思っています。

山城地域というのは、都市近郊型農業で、農業としても本当に未来があるという地域だと思っておりますので、我々生きていくためには食べるものが必要だ。日本というのは、余り自給率も低い国ですから、これから団塊の世代の方々がさらにすばらしい農作物をつくっていただけるように、我々も取り組んでいきたいと思います。ぜひとも頑張ってください。

○司会 ありがとうございます。本当に手短く、ありがとうございます。

さあ、それでは木村精華町長、お願いします。

○木村 要精華町長 済みません、まず、宇治から精華町の方においでいただいて、野菜をつくっていただいているという、このことについては、塾とかかわりの中でお運びをいただきましたこと、お礼を申し上げます。

私も専業農家の1人でありますので、そんな野菜づくりができるのかなと、こんな思い

ですと眺めていたわけでありますけれども、非常にけさも私は畑に足を運ばせていただきました。ミニトマト、ナスビ、あるいはオクラ、ゴーヤ、三度豆、トウガラシ、約8品目ほど野菜を、夏野菜をつくってございます。我々と決して大きな違いはありません。私はびっくりしました。

私は、今まで城陽市の久津川の駅前にスーパーありますけれども、あそこに長い間お世話になりました。そして私のキャッチフレーズは安全・安心ということで、残留農薬ゼロの認定を受けて販売をしたわけでありますけれども、まさに、今、青山さんが取り組んでおられますのは、熟年営農チャレンジ、チャレンジャーですね。この思いは、生活者全く同じ思いの中で今スタートされたということは、この名を売ることは成功につながると私は確信をしております。特に、今、知事さんもおっしゃいましたように、南山城地域は生活者が急増している町でありまして、願いが、あるいは思いが一致すれば、私は立派に営農は確立できるものと思っております。

ただ、農地をどうするかということもあります。それは、それぞれの行政の中で、皆さん方が活用いただけるように行政が中に入って責任を持てば、私は農地の貸与も可能であると、このように思っておりますので、成功を祈っております。私たちも全力を挙げてお支えを申し上げたいと思います。

ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

それでは、地域代表、最後の方の御意見でございます。長岡京市下海印寺まちづくり協議会会長、山本 隆さんから御意見をお願いします。

○山本 隆 ただいま紹介いただきました長岡京市下海印寺まちづくり協議会会長をさせていただきます、同じく山本 隆でございます。

さて、府民の皆様の意見交換ということでございます。パンフレットを配付させていただいております中にあると思います。本当はカラーなんですけど、きょうは白黒でございます。

下海印寺まちづくり構想をもとに、意見を発表させていただきたいと思います。

本会では、活動しまして節目の10年が過ぎました。新たに11年目をスタートしております。

第二外環状道路もいよいよ本格的に工事が始まり、長岡京市南の玄関口の地域として、

集団移転による土地区画整理事業の完了、それらに伴うお寺の移転、旧小泉川の整備、小泉川の清掃活動、民間開発の誘導等、過去 10 年間の実績をもとに、さらに具体的に内容をまとめながら、構想の実現化に向けて取り組んでいます。

京都府に望むことといたしましては、全国よりややおくれている道路整備といたしまして、京都第二外環状道路を計画どおり事業を進めていただき、平成 25 年 3 月には、おくれることなく完了していただきたいと思います。その間、地域に問題が発生した場合、速やかな対応をお願いしたいと思います。

次に、身近な問題ですが、小泉川の清掃、水辺環境づくりとして、2 週間に 1 回、会員全員の参加を募って実施しております。また、除草作業は 2 カ月に 1 回開催しておりますが、京都府担当のところは、常に雑草に覆われて、ごみのポイ捨て、犬のふんなどが目立っておりますので、草刈りの回数をふやしていただきたいと思います。将来は、その場所は魚などを放流して、地域の交流場所として考えていますので、そのときはいろいろな支援をお願いしたいと思います。

下海印寺という場所は、小泉川をずっと南北に 1 キロ。今度、第二外環状道路ができます。それでびっくりして、長岡京市まちづくり条例に基づいて、下海印寺まちづくり協議会というのを 10 年前に立ち上げて、年 2 回、協議会ニュース、それから小泉川の清掃、ただいまでは 10 年たって、自然に発生した蛍が、川面を明るくするほど蛍が飛んでいる下海印寺地域でございます。長岡京市のおかげさんで、援助で、蛍も育てていただいています。それから下水も完備されて、川が本当に手ですくって飲めるほどきれいな小泉川にしてください、本当に市長、ありがとうございます。

最後になりましたが、温暖化に伴う自然災害が多く発生し、住民に不安感をもたらせていますので、災害に強い京都府、山城地域にさせていただくために、安心・安全な山林、河川の整備をお願いしたいと思います。

いろいろ申し上げましたが、今後とも関係者の皆様方の協力、よろしくお願いし、意見発表にかえさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

それでは、山田知事、一言コメントをお願いいたします。

○山田啓二知事 第二外環状道路というのは、これは京都の背骨ですんで、情けない話なん

ですけども、北部へ行きますと神戸の方が近いという状況にありまして、本当に京都なのかという思いを抱いていらっしゃるし、そこからずっと来て、せっかく京都縦貫自動車道としても、名神につながってなければ、この山城全体も一本になれないということになってまいりますんで、ちょっと新名神ができてないのが残念なんですけども、本当に地域が一体となって行動するためにも、京都の大きな結束力を高めるためにも、この道路をしっかりとつくってまいりたいと思っております。

川の整備、なかなか行き届かない点があって申しわけございますけれども、これもまたまちづくり協議会の皆さんとも力を合わせて、我々もしっかりと、皆さんが楽しめる、蛭でいっぱい的小泉川が守れるように頑張っていきたいと思っています。

安心・安全の方は、もう間違いなく全力を挙げていきたいと思っています。ただ、安全・安全って、なかなかわかりづらい面がありましてね。例えば、今、向日市ですばらしい、下の方には呑龍という大きな下水のトンネルを掘ってるんですけど、見えないもんですから、この成果というのがわかりにくいという面があります。

ただ、本当にしっかりとこれからも我々、安心・安全をやっていききたいと思っていますし、その中でもメインになる宇治川、桂川の淀川の整備の関係も、随分後回しに、宇治川と桂川の整備、遅く回されていたんですけども、今回ようやく整備局の方も、我々もいろんな言い方はさせてもらいましたけれども、まず宇治川から、桂川から先に整備を始めてもらうということになって、予算もつくことになってますんで、それも含めて、京都府も一緒になって頑張っていきたいというふうに思いますので、安心・安全、これが行政のかなめやと思いますから、しっかりと皆さんとともに進めていきたいと思っています。

○司会　ありがとうございました。

それでは、地元、長岡京市の小田長岡京市長、お願いいたします。

○小田　豊長岡京市長　ただいま発表いただきました、下海印寺まちづくり協議会の下海印寺地区、先ほどお話がございましたように、小泉川を縦断している。その周辺には、豊かな農地が広がっている。そして、自然と緑に囲まれた地域でございます。そこへ第二外環状道路の整備促進がされようとしていると。まさに、地区を分断する道路になるところでございます。そういうところが地域で地域を守っていくと、こういうことで、みずからの地域の創生に向けて、まちづくりの創生に向けて協議会の立ち上げをいただいたところでございます。

そういった、一つまさに私は、先ほど地方分権というお話が出ておりますけれども、私にすれば、まさに長岡京市の地域主権、こういうことが言えるんじゃないか。地域力、地域コミュニティの醸成ということで、実践をいただいているところでございます。

御意見をいただきました第二外環状道路の整備促進ということにつきましては、山田知事さんと連携をともにしながら、1日も早い整備に向けて努力をしてみたい。

そして、2点目の小泉川の河川管理、清掃活動ということにつきましては、これはまさに地域力の一つ向上だと、このように思っておりますので、ともに手を携えて、地域下海印寺地区のために、ひとつ展開をしてみたい、お支えをしてみたいと、こういう考え方をいたしております。

きょうは、どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

山本 隆さんからの御意見、ありがとうございました。

さて、お忙しい中、宇治市及び久世郡選挙区の府議会議員、山本 正様がお見えになりましたので、御紹介いたします。

本日はありがとうございます。

さて、会場の皆様、お待たせいたしました。いよいよ府民交流会。会場の皆様と意見交換をさせていただきます。

発言ですが、皆様にお願いでございます。手を挙げて発言いただき、指名させていただいた方に係の者がマイクをお持ちいたします。そして、最初にお住まいの市町村名を、お名前、こちらを言っていただきまして御発言ください。

なお、最初にもお願いしましたとおり、できるだけ多くの皆様のお声を伺いたいのので、発言は2分以内でお願いします。また、お答えするコメントの方も短くお願いいたします。

時間の方が30分から40分ぐらいしかございませんので、どうぞ皆様、最初は手を挙げにくいなと思われてる方も、最後になってたくさん挙がるということがありますので、もう最初から元気よく手を挙げて御意見をいただきたいと思います。

さあ、それではお手を挙げていただきます。御意見のある方、どうぞ。

たくさん挙がりました。私から指名させていただいてよろしいでしょうか。

では、白い服をお召しの前の方の方、お願いいたします。

○発言者1 こんにちは。私、宇治市に住んでおります。きょうはここに寄せていただきま

したんは、社団法人京都府猟友会、山城ブロック代表として、社団法人京都府猟友会副会長をしております。

そういった中で、先ほどから自然を皆様方、多く言葉に出しておられます。そういった中で、猟友会という形の中で、有害捕獲事業というのが、きょうは地域の首長さんといえますか、知事さんまで全部お見えですので、この場でお願いしときたいと思います。

そういった中で、我々猟友会員、京都府 1,980 人ほどいます。そういった中で、有害捕獲事業には特に気を使ってみんながやっておりますが、この山城地域におきましても、被害がだんだん増大しております。そういった中で、各市町村の方も、我々がお願いするのは、どうしても出動するに当たって出費します。そういった中で、これからの時代は特に高齢化の時代になります。

地域の、話ちょっと変わりますが、先日も京都府森林保全課の皆様方と、広域事業ということでお話をしましたが、そういった中で、和束の課長さんですか、農政課の課長さんに来ていただいて、地域地域が連携をとっていただいて、猟友会はお願いをされたら必ず実行するというふうな形を思っておりますので、できる限り協力していきたいと思っております。

そういった中で、何遍も言いますが、費用がどうしてもかかります。こんな厳しい時代でございますけれど、何とか助成の方もまたよろしくお願いしたいと。これだけ全員の山城の方々がおられます。山城ブロックというのは、相楽、綴喜、乙訓、宇治と、四つのブロックから成り立っておりますので、その辺も特に宇治田原の町長さんもおられますが、一生懸命やっておりますと思います。みんなも協力してますので、よろしくお願ひしたいと思います。

こんなとこです。どうも。

○司会 ありがとうございます。

では、コメントは。

○山田啓二知事 本当にあれですね、せっかくつくった農作物を荒らされた瞬間に、どれほど農家の皆さんが、もうこんな仕事したくなくなるぐらいの思いに駆られるという話が、そこらじゅうで、京都じゅうで出ています。

ですから、我々も有害鳥獣対策をしていかなければならない。できれば、里に動物がおりてこれないような環境をつくるのが一番だと思いますけれども、やはりそれだけでは

済まない。人間と動物が共生していくためにも、猟友会の皆さんに一定数の駆除をお願いしていかなければならないと思っています。その駆除に関しましては、我々も責任を持って、これからも猟友会の皆さんを支えていけるようにしていきたいと思っていますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

○司会 ありがとうございます。

さあ、それでは参りましょう。山城地域、そして京都府の未来についての思い、そして皆様の御意見、どうぞ、あります方、お手を挙げてください。どうぞ。

たくさん挙がりました。じゃあ、あちらの方ですね、お願いいたします。

○発言者 2 緑と太陽、やすらぎのまち・城陽から参りました。

「明日の京都」府民交流会、非常に意義あるところと感じておりますが、特に山田知事と 15 の首長さんがお集まりになったということで、少し広域的な視点からお話をさせていただきたいと思います。

最も大事なことは、地球環境に優しくという面と、それから交通体系といいますが、交通渋滞という点に絞って、広域的な視点で意見を申し上げたいと思います。

まず、JR問題でございます。JRの問題は、尼崎のあの大きな事故一つ見ましても、大JRを動かす力というのは、一個人ではとても無理だと。いろいろな方が力を合わせて、徐々にではありますけれども、JRの姿勢が軟化していったということは御承知いただいていると思うんですが、今、京都府の現状を考えますときに、JRの初期の段階では電化を進めようということで、広域的な視点に立って各市町村は連携をされたというように思います。それから次に、複線化というところで、大きな輸送力の増強ということで力が沸いてきたと思います。

そういう中で、輸送力の増強とか、あるいは地域住民の移動というものが、非常にうまくいったんでございますが、その大きな複線化と、そして電化という工事が済んだ後に、JRに対してどうなのかということを考えてみますときに、今、宇治の市長もいらっしゃいますように、第二岡本病院の踏切の閉鎖時間の長さ、それから伊勢田の付近の、近鉄の伊勢田の山手の踏切道の閉鎖時間の長さ。私の住んでおります緑豊かな城陽におきましても、非常に複線化された中で、踏切の遮断時間が旧態依然でございます。ダイヤも変更され、増発された。住民の利便性というのも非常に高まった。ところが、踏切の閉鎖時間というのは、昔のままの閉鎖時間でございます。

例えば、伊勢田でございますと、伊勢田の手前でとまった電車が、入駅のときから前方の踏切は下がったままである。宇治の宇治川のへりの踏切もそうでございます。宇治駅にとまった電車が、まだ発車しない段階から下がっております。城陽におきましても、城陽駅の前の踏切も、非常に遮断時間が長うございます。

ということで、道路停滞が起こっておる中で、あるいは自動車が数珠つなぎになるという状態の中で、一酸化炭素の発生ということ、あるいは地域のインフラの整備というものも、地域に与えるいろんな問題点も多くなっております。

事をいろいろ挙げてみますときに、JRの一つをとりましても、広域の15の首長さん、今ずっと見ますと、木津川市も関係あるでしょう、向日市も関係あるでしょう、もちろん宇治市も関係がございます。城陽市、長岡京市、京田辺市、すべてJRの遮断時間の長さで、大切な時間をむだに消費している。これは、まさに以前、沿線の首長さんが御協力いただいた、電化を進めよう、あるいは複線化を進めようという力をもとに、踏切の遮断時間を、現在のコンピューターにのっとってもう少し短縮していく、そして一酸化炭素の発生を減らしていく。こういうところから15の首長さんが力を合わせて、広域的にJRと折衝していく、こういうことが日常の市民、府民の生活を、ある一面においては支えていく原動力になるのではなかろうか。

ほかに、道路行政もそうでございます。右折レーンがないがために、道路が停滞している。こういうことは、やはり宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、それぞれ共通した課題であろうかと思えます。

将来のビジョンを語るという前に、そういう将来のビジョンを語るという前提に立って、今の現状をどう改革していくのか、相手に対してどう求めていくのか、この辺について、山田府知事のリーダーシップと、それぞれ市町村の首長さんの決断をお願いしながら意見を求めたいと思います。

○司会　ありがとうございました。

○山田啓二知事　おっしゃるとおり、京都の場合には、非常に大切なのは、これは南北軸なんですよね。どうしても東西短いですから、京都を発展しようと思うと、南北軸をきちっとやっていかなきゃならない。だから、その中で鉄道というのは非常に重要でして、今は山陰本線の複線化やってますけども、次はまた奈良線を強化していかなきゃならない。強化していくことによって、京都をきちっとした、物、人が流れる活発な地域にしていこう

と思う。

でも、これがもろ刃のやいばのところがありまして、鉄道が整備されてたくさん電車が通るようになりますと、今度は踏切の問題が出てくる。もともとそれだけではなくて、木津川が流れてますんで、東西の交通というのが橋で遮断されていてって渋滞が起きてるのも現状だと思っています。

こうした問題に対して一つ一つ、私たちは、すぐにさっとできる解決策というのはなかなかないのかもしれませんが。おっしゃったように、コンピューター連動でうまくやればいいんでしょうけども、それも多分ＪＲの踏切なんかも、大体、遮断速度を考えてやっていますから、そこを根本的に変えられるかどうかというのは、多分かなり科学的な見地からお互いに検討していかなければならないと思っていますけども、少なくとも、例えば立体交差を進めていくとか、右折レーンをしっかりつくっていくとか、そうしたものを我々がやっていて、東西の交通と南北の交通が本当に調和をしていくような形というものを、これは夢ではなくて、我々はビジョンの中でしっかりと提示をすることによって、ＪＲに対しても物を言っていかなきゃなりませんし、また、府民の皆さんにも理解を求めていく活動をしていかなければならないというふうに思っています。

既に今、例えば 163 あたりでも、バイパスをつくったり、それからＪＲとの立体交差の部分の強化を図ったりという工事も行っておりますので、両方相まって、未来にみんなが過ごしやすい山城になるように頑張っていきたいなと思っています。

○発言者 2 今のＪＲの奈良線はどうか、この辺のところを専門的な立場に立った技術者が、ＪＲ奈良線の遮断時間を、今の低いコストで改良できないかという点について、さらに御検討いただければありがたいと思います。

○司会 はい、では。

○発言者 2 実は、沿線の市町村で、井手町の汐見町長さんが会長でございまして、奈良線の複線化、また安全対策促進協議会をつくっています。そこでいろいろ要望をやってます。

1 期工事が、今おっしゃいましたように、複線化が部分的ですけどでき上がりました。快速、みやこ路快速、それから区間快速、それから鈍行という、本数は非常にふえて、駅によっては非常に利便性が向上しました。しかし聞きますのは、今おっしゃいましたように踏切遮断時間、これがもうけしからんと。かえって車の者は不便になったというおしかりを聞いてます。

実は、その協議会で、これ本当でしたら、井手の町長からおっしゃっていただいたら一番いいんですけども、今おっしゃっていただきました内容につきましては、そこでも要望を出してます。尼崎の福知山線の事故がございました。このときに緊急要望で、市長会、町村会等で、ＪＲ西日本に対しまして、奈良線の問題は、一つは、その当時、福知山事故が起こったときには列車自動停止装置、ＡＴＳ－Ｐという機械ですけども、これが各列車についておりませんでした。ですから、運転士さんがもし居眠りしてたら、自動的に駅も飛ばしていくし、踏切ももう全く警戒せんと行くと。これが、今、自動停止装置が全車につきました。

これはできたんですけど、快速、それから区間快速、鈍行という３種類があります。ですから、私鉄の踏切遮断時間というのは列車識別装置、これは特急なんか、快速なんか、準急なんかという識別ができます。ですから、この踏切を閉める必要があるかないかという判断をする装置が、全部ついてます。

今、奈良線は、残念ながら全車両にこの列車識別がついてないんです。ですから、これをいかに早くつけてもらうか、このことを京都府と、また市町村、また汐見町長を先頭に、複線化協議会でしっかりと要望していきたいと思います。

よろしくお願いします。

○司会 はい、お手が挙がりました。どうぞ。

○汐見明男井手町長 私の名前出てましたんで。

○司会 出ました。

○汐見明男井手町長 一言だけ。ＪＲ奈良線の促進協議会の会長を務めさせていただいておりますけれども、奈良線は昭和 58 年に林田知事さんのときに電化ができました。平成 9 年、それから 13 年にかけて第 1 期工事。これは荒巻知事さん。山田知事さん、3 期いったら頼みまっせと、あと複線の方、全面的に出てもうて頑張ってくださいやと。3 期出られて、当選されたら進むと思います。

今、遮断機の問題出てます。これは、当然セットでしっかり頑張りたいと思いますけども、複線化を進めて、利便性を高めたいと。少し迷惑かかるかもわかりませんが、ひとつよろしくお願いしますと思います。

○司会 汐見井手町長、ありがとうございました。

さあ、さまざまなジャンルから皆さんの思い、そして御意見を伺いたいので、次に参り

ます。どうぞ大きく手を挙げてください。それでは、次の御意見どうぞ。

じゃあ、両手を挙げておられますので、後ろの方、お願いいたします。

申しわけございませんが、御意見は手短に2分以内でお願いいたします。

○発言者3 済みません、障害者の意見の一つとしてお聞きください。

私は、今、身体障害者療護施設で、介護職員の支えを受けて暮らしています。私自身が介護を受け、介護職は仕事はきつく、給与が安いと理解しています。今、身体療護施設への入所者待ちの人たちが多く、老人施設ともなれば入所者同数の入所待機者がおられるとのことです。団塊世代の方々が施設でお世話になるころには、施設の状況はどうか気になる点です。施設がふえ、職員は確保できてるのでしょうか。

就職難の今日であっても、福祉施設への就職者が少なく、退職者が出れば、すぐに補充できないのが現状です。介護職が魅力ある職業とするためには、第一に一般企業に近づくぐらいに報酬を上げるべきです。そうしなければ、介護に必要とする人材は集まらないのではないのでしょうか。財源として消費税を上げるべきです。私たちのような弱者、低所得者に、生活必需品、食料品には消費税は少なく、高価なものには消費税を上げ、社会福祉を目的に使っていただきたいと思っています。

外国人の介護現場への受け入れも必要なのかもしれませんが、介護を受けて生活をしている利用者の1人として、今、介護職として現場で働く人たちの生活を守ることが先決だと思います。給料が安く生活できないから離職ということが実際に起こらないことを願うばかりです。

国政に問うべきかと思うんですが、京都府政としてどうお考えなのかお聞かせください。

○山田啓二知事 基本的には、おっしゃるとおりだと思っています。

私たち、今、二つの点からこの問題に対応しておりまして、特に介護職の給与の問題について、一つは資格を持っていただくと給与が上がります。ですから、京都府は徹底的に資格取得がしやすくなる。そのための援助のための施策を、4,000人の福祉職場人材確保施策と言っておるんですけども、ことしの当初予算で組みました。これによって、資格を得ることによって給与が少し上がる。

それからもう1点は、やはり直接給与を上げる施策を行っていかなくちゃならない。国に対しては要望をしてまいりまして、去年の介護報酬の改定で、3%程度の介護報酬が上がることになりました。それによって、給与の方も少しは上がることが期待されますけども、

ただ、もともと今、介護の施設が厳しい状況に経営的にありますので、そこへ回るかどうか分からないということで、今回、国の方の補正予算も受けて、6月の補正予算で、介護の皆さんの給与が上がるための予算を組みました。こちらの方は、直接、介護職員の給与に働きかける予算になっておりますので、そうした両面からまず待遇改善を図っていきたいというふうに思っています。

しかし、これからの高齢化社会を迎えるわけですから、その高齢化社会において本当に安心して我々が未来に向かって生活できるということをやっていくためには、やはり受益と負担との関係というものについてはみんなで考えていく必要があると思っています。もちろん、むだをなくすこととして、効果的な行政を行うことというのが一番最初に求められると思っていますけども、同時にこれから私たちはどういう高齢化社会を迎えた福祉社会を通じて、みんなが年をとるのは間違いのないわけですので、そのときに安心できる体制のために全力を尽くしていきたいというふうに思っておりますので、御意見を踏まえてビジョンを描いていきたいなというふうに思っています。

○司会 それでは、続いての御意見、どうぞ。

じゃあ、そちら手が挙がりました。

○発言者 4 大山崎から来ました。きょうの「明日の京都」ビジョンというので、いいテーマだと思いますんで、きょうは喜んでここへ来たわけなんですけど、大山崎といいますと水道問題じゃないんです。きょうは山田知事、御安心してください。私が問題としているのは、2市1町合併問題で、府の見解を求めたいと。

大山崎町とは、水道でもめてますんですけど、山田知事に何の恨みもありませんので、知事の忌憚のない意見を聞きたいという思いで来ました。

2市1町合併問題は、是々非々で市町村の行政とか、あるいは市民が勝手に考えてやれということなのか、あるいは、ただ合併で2市1町という枠組みを府がつくっているもんという部分ですから、それなりに府もある意図があって2市1町という枠組みをつくったんだと思うんですが、その辺でやはり府のかかわりもないとは言えないと思うんです。

既に、山城広域振興局より分科会だよりというのがありまして、アンケート調査やら、各市町村の財政状態の報告なんか事細かに書いてあります。これは非常に参考になります。だけど、どのぐらいの人たちがよく理解しながら読んでいるか、いや、非常にわかりやすい説明でいいんですよ。これを見ていると、決して2市1町そんなにいい状態やないと

思うんです。これ、棺おけに足突っ込む、あしたもうすぐに突っ込むころになってからやろう思うたって、これ無理な話だと思うんです。

ここで、今一番問題になってるのは、一つね、国も特例ですか、合併特例いうもんもなくすという話だし、行政主導のトーンが、我々のとこで大分もう落ちてしまってるんです。前町長が分科会のそういう主導をしたいような形で、市民会議も長岡京市でもやりましたし、これで何かうまいこといくんか思うたら、町長落選してましたでしょう。そうすると、その後、全然寸詰まりだし、それで分科会だよりも、今までは1カ所に集まって、大山崎町の旧庁舎に集まって、2市1町の分科会のメンバーが、代表者が集まって、一つの席に、机を、テーブルを一つにしとったんだけど、今は個別に皆、各市町村に返ってると。ということは、非常にトーンダウンしてるんですね。

この2市1町の合併というのは、京都の北の方のどこかの町の市町村の合併とわけが違います。2市1町、これ一つの経済圏です。我々も、ほとんど長岡京市にお金落としとんです。本当にそうです。お金は全部、長岡京市行って、長岡天神、電車乗るわ、全部お金が。そういう中で、一つの経済圏ですから、ぜひ任せっぱなしではなかなか前へ行かない。

聞くとところによると、2市1町の首長さんの仲があんまりええことないと。そうすると、これ我々市民レベルで何や考えたって、うまいこといけへん。ここでぜひ、山田知事に恨みはありませんから、1回、行政のスリム化ということを念頭に置いて、どんな見解持っておられるのかね。それによって我々市民の動きもいろいろ変えていかないかんと思うとるんですけど。片思いでは何もならへんのですわ。その辺ちょっと考えて、返事いただきたいと思うんですけど。

○山田啓二知事 恨まれるようなことも何もしてないと思うんですけども、この問題、まず何が必要かということですよね。一番必要なのは、やはりこれからの時代乗り切るためには、住民の皆さんの力が生かされなきゃいけない。そして、住民の皆さんの力を生かすためには、住民の皆さんと一番接触をして話し合って地域をつくっていく市町村の力が、これからどんどんやっぱり強くなっていかなきゃいけない。京都府が強化されていくよりは、これからはやっぱり市町村の強化ということが大切であるということでは、恐らくだれも異論ないんじゃないかと思います。きょう、ここにいる15の市町村長さん。そして強化をしていくときに、どれだけの圏域でやっていくのか。

例えば水道の問題だって、2市1町に水道の施設がどれほどたくさん要るのかという問題から考えていかなきゃなりませんし、既に消防は一本化して力を発揮されている。じゃあ、おっしゃったように医療の面ではどうなのか、福祉の面ではどうなのか、買い物の面ではどうなのか。結構、住民の皆さんはもう一本化して一体化されているということであるならば、私どもは力を合わせていった方がいいことがあるのではないかなというのが基本的なスタンスです。

でも、今の制度においては、これは正直言って、知事が何か言っても、各市町村が判断をしていくことになっています。それは、当然理由があって、地域のことは地域で選ぶんだから、だれかもっと広域的な見地からぼーんとやっつけてしまえというのはおかしいというのが制度の趣旨です。つまり住民がどうするか選べというふうになっているので、私が幾ら言うても、それは最終的には、結論としては地域の市町村の市町村長の意見、議会の議決になるということになります。

このことは、かつて山城では相楽で起こった話でありまして、さあみんなで一緒になったらどうですかという、私どもおぜん立てはしたんですけども、町の方の反対があって合併はなりませんでした。それに対して、私は全く何の権限もないのは現実であります。そして、それは決して私は悪いことではないというふうに思っています。まず、自分たちの町の、自分たちの将来を選ぶのは住民であり、住民の皆さんの代表である首長さん、仲がいいかどうかは別としまして、議会であると思っていまして、私たちはそれに対してアドバイスはしますし、そしてそれを支えていく仕組みづくりもします。でも、最終的な決断はそこにあると思っています。そして、どういう結論を選ぼうと、我々はその中で住民の皆さんが未来に向かってきちっとできるように、例えば相楽ですと、東部の3町が広域連合を組まれましたけども、それに対して我々は支えていくための援助をしています。こういう形で、決断についてしっかりと京都府は見守っていきます。

ただ、これからのやっぱり地域の未来を考えた場合に、基礎的な地方公共団体である市町村が力をつけていかないと、行財政能力を高めていかないと、ある面ではやっぱり住民の皆さんの幸せというんでしょうか、未来づくりのためには、決していいことではないというふうに考えております。

○司会 時間が参りましたので、先ほどの御意見、最後にさせていただきます。これにつきまして、真鍋大山崎町長、そして久嶋向日市長、小田長岡京市長から、一言ずついただき

ます。

真鍋大山崎町長からお願いします。

○真鍋宗平大山崎町長 真鍋でございます。

合併については、いろんな意見がこれまで展開をされてきたわけですがけれども、私たち3人で乙訓地域、今、お預かりをするわけですが、決して仲が悪いわけではもちろんありません。そして、この間ずっと論議を重ねてきたんですがけれども、やっぱり以前に比べると、住民の皆さん方の合併に対する向かい方というものは、必ずしも盛り上がってきたとは言えないんですね。これは、いろんな指標の中での私どもの感想であります。

ですから、今後、皆さん方がどう考えるかということ、盛り上がりがどんな方向に、どんなふうに展開していくかということと非常に深くかかわっております。私自身も、乙訓圏域が非常に小さい範囲内で三つの自治体に分かれているということの持っている不合理性といいますか、必ずしもそれが適切かどうかという問題については、私自身もよく理解をしているつもりであります。

しかし、その前提になるのは、やっぱりそれぞれの自治体が自立的にやっていながら、その中で皆さん方の考えを受け入れて、そして皆さん方自身も御判断をしていただくという段階が必ずあるんじゃないかというふうに考えております。

○司会 続いて、久嶋向日市長、お願いします。

○久嶋 務向日市長 向日市の久嶋でございます。

ウチさんのお話、よく聞かせていただきました。合併がこの2市1町で盛り上がらない大きな理由の一つは、一度、昭和47年当時に、合併の話が盛り上がったときに破談になってることが、私は大きなネックになってると思います。それから随分時間もたっているわけですが、2市1町の住民さん同士、それから行政間同士、それから歴代の首長同士にやはりいろいろあったことは、私はゆがめない事実だと思います。

ただ、今、小田市長、それから真鍋町長、私と、決して首長同士で仲が悪くて全然話ができないというようなことはございません。現実、今、ごみ処理とか、それから消防とか福祉関係につきましては、認定審査会とかいろんな面で、随分利口な協力関係もできておりますし、こういうことをしっかりと築き上げていくことが、我々に課せられた使命であると思っております。

合併問題は、決してこれで終了したわけではございませんで、これからもいろいろ研究

もしていき、それから事務方同士での交流会もやっておりますので、決して火が消えたわけではないと私は考えております。

○司会 ありがとうございます。

さあ、小田長岡京市長、お願いいたします。

○小田 豊長岡京市長 乙訓地域の合併問題、山田知事さんが決めていただくものではないです。我々市町村が判断をすべき問題だと、このように考えております。なぜなら、地方分権です。みずからのまちづくりを自主的に、責任を持って運営していく、これがまさに私は地方分権ということであろうというふうに思っております。

ただ、この問題、我々が判断をする前提は、市民の皆さん方の民意でございます。どういう盛り上がりが出てくるかと。それが一番大きな課題であろうと、こういう受けとめをいたしております。

以上でございます。

○司会 ありがとうございました。

本当に時間が少なくて、皆様、申しわけございません。そろそろ時間が来てまいりました。

そして、きょうはステージ上、各市町村長お越しいただいております。一度も発言されていない方たくさんおられまして、もやもやとされてるんじゃないかと思います。

それでは、ここで壇上のまだコメントをいただいていない皆様に、山城地域の未来について、一言ずつお話いただければと思います。

それでは、橋本城陽市長からお願いします。

○橋本昭男城陽市長 どうも御苦労さまでございます。

違うテーマでお答えしたかったなというふうに思っていたんですけども、私は、城陽市長としまして、山城の未来を語るときに、やはり新名神高速道路を活用した地域づくり、まちづくり、それは欠かせないことやというふうに思っているわけでございまして、地図上で見ていただきましたら、新名神高速道路、京奈和道、それから第二京阪道などなど、私、交通の要所に京都の南部が占めていると、このように思っているわけでございまして、城陽市も新名神高速道路によるまちづくりを、市の上位として位置づけているわけでございます。

したがいまして、南部のまちづくりを語る上で、私はこういった高速道路を活用したま

ちづくり、これを避けて通れないと、このように思っておりますので、ぜひ知事さんにも大きな力を発揮していただいて、今、凍結状況になっております大津・城陽間の供用開始、これによって、私、限りない発展の可能性を秘めた地域であると、このように思っておりますので、ぜひそういった南部のまちづくりをお願いしたいし、我々もそういった働きかけをしたいと、このように思っております。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

続いて、明田八幡市長、お願いします。

○明田 功八幡市長 済みません。きょうも八幡市からたくさん来ていただいて、ありがとうございます。この辺とか、あの辺とか、あの辺とか、たくさん見えて。タグチさんなんか、もう前の人の顔で全然見えないんですけども、ありがとうございます。

あちこちで、八幡市の中で「ふれあいミーティング」と称して、きょうは知事との和い、和いミーティングということなんですけども、ふれあいミーティング、そういう名前ではなくて、いろんなことをお話ししているんです。

最近、そういう会合へ行きます。私自身、ここに市町村長 15 人並んでおいでになりますけれども、その中で一番幼稚な、まだ1年5カ月しかたっておりませんので、一番素人なんです。そんなことに関係もあると思います。もう行ったら、やあ、何も要望しませんよ。皆、頑張ってちょうだいねと言われてるんで、ありがとうございますと帰っていきますけれども、多分、頑張ってくださいねということは、頑張るという言葉は、頑は頑固の頑で、張るはびしっと張れということで、あんたはあんたの思いなりに頑固にやれということかなと思うて、勝手にやっております。あんまり人の意見は聞いておりません。

ただ、人の意見を聞かないというのはどういうことかと言うと、今、マスコミ帰られましたけれども、庶民感覚というのは、非常に、何て言うのか、新聞、テレビ、あるいは雑誌等でゆがめてつくられてるような、そういう気がします。

先ほどからお話がありますように、山城の未来をつくっていくというときには、庶民感覚というのではなくて、市民意識というものをしっかり持って、自分たちはどういうふうがいい町をつくっていくんだ、いい地域をつくっていくんだということを、それこそ頑固に持っていかななくてはならないんじゃないかなと、こんなことを思っております。新聞やテレビや雑誌に左右されることなく、自分たちの町はどうしていくんだかという意味こそが

大事であるというふうに思っております。

ただ、私はまだ1年5カ月です。ちょうど山田知事は今8年目に入られて、油が乗り切っておられますから、知事にも引き続きしっかり頑張っていて、私たちの地域の頑固な意思を伝えていきますので、実行していただきたいなと、こんなことを思っております。

ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

続きまして、石井京田辺市長、お願いします。

○石井明三京田辺市長 今、八幡市長が言われましたように、八幡市長は1年ちょっとということで、私は2年ちょっとということで、2番目に若い市長でございます。

その中で、やはり山城の未来ということでありますけども、やはり未来というものは、各市町村においてやはりらしさというものが必ずあると思います。そのらしさをいかに市町村、市町村がしっかりとやっていくかということが、大きな山城地域が固まれば、本当に立派なそういう未来が築けるんじゃないかなと思ってるわけでございます。

私のことでございますけども、ずっと高校野球をやって、甲子園も出た人間ですけども、やはり何でも全員野球というものを頭に置きながら、いろんな形で話をしているというのが現状でございます。その中でポテンヒットというのがあるわけでございますけど、ポテンヒットというのは、一人一人それぞれの役割をしてない者がある、職員の中にもおるし、その中でやはりみんなが協力し合う、お互いさんという中でやろうということが、やはり全員野球ということで、地域もみんな、皆さんが、やはり一人一人が全員が、その地域に向かったまちづくりをしようということが大切じゃないかなということを基本に、行政を進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

次に、坂本久御山町長、お願いいたします。

○坂本信夫久御山町長 どうも皆さん、御苦労さんでございます。久御山町長の坂本でございます。

将来の夢というようなことでございまして、大変大きなことだというふうに思っております。何といいましても、一番大事、これからはやはり地球環境。やっぱり、先ほど多胡

歩末さんからのお話の中にもありましたように、本当にエコ、我々、国だけに任すんやなしに、我々自治体もそれを踏まえて、どのような行政をしていくのかが一番大事ではないかなというふうに思っております。

また、先ほど久御山町の方から、古川をきれいにする会の事務局長の長岡さんが見えておりまして、先ほどから手を挙げておられるんですけども、指名をされておられませんので、私の方からひとつよろしく願いを申し上げたい。

今、ただいま知事にお渡ししましたのは、長岡事務局長さんが1カ月に一度、毎月、古川だよりというものを出していただいております、この古川をきれいにする会が、平成の何年でしたかな、17年に設立をいただきました。今日まで本当に80名の方が、本当に川の中にも入り、土手のごみ拾いを行い、本当に昔の古川に帰したいと。どうか本当に魚の生きられる川をつくりたいという思いで、今日まで本当に努力をしていただきました。

その中で、京都府の方にもお願いをしてきておられるんですけども、まだまだ回収が進んでないということでございまして、きょうはそのお願いに来ていただいたというふうに思っておりますので、ひとつ知事の方に御理解いただきますように、よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

それでは、続いて奥田宇治田原町長、お願いいたします。

○奥田光治宇治田原町長 1人ずつというストーリーやったんですけど、もう時間切れでないと思ってたんですけども、一言しゃべれということです。

まず、先ほど鳥獣害被害の御意見いただきましたですけども、宇治田原は山深いとこですので、サルとかイノシシとか、最近はシカに困ってるんですね。これらについては、猟友会の皆さんとしっかりこれから力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますが、抜本的には、共生よりも、私は自然の中での共生よりも、本格的な個体調査をして、その上で環境団体と話し合って、抜本的な生産調整を何年かに1回はしないことには、繰り返さだろうというふうに思います。

宇治田原では、畑の中に四角い網をつくって、その中で人間がサルに飼われているような、反対のような立場になっています。毎日、私も耳にたこができるほど、何とかせいといわれてますので、また今後とも猟友会の皆さんのお力をかりてやっていきたいと

思っております。

それで、きょう冒頭、竹葉府立大学の学長さんからお話がありましたけども、自分たちができることは自分たちでやろうと。これは、まさに分権の基本の話だと思います。国と都道府県の関係、都道府県と市町村との関係、そして市町村と地域のいろんな活動団体、あるいはまた個人住民の方の関係でも、どの場面でも言えるというふうに思うんです。

きょうは、大きな京都府の明日のビジョンということでございますけれども、いろんな御意見、課題が山積をしているんですけども、きょう出たのは氷山の一部だと思いますけれども、そういう課題、問題をまず認識をして共有する、そこからすべてが物事が始まっていくというふうに思います。

宇治田原でも悩みがたくさんありますけども、15 市町村いろんな課題があると思いますけれども、そういう課題を共有して、その課題を認め合った上で、共有し合った上で、自分は何ができるのかということ、その一步を踏み出す人数を、数を大きくすること、そのことが地域力をさらに高めて、市町村を元気にしていくことにつながっていく。隣の町とも、いろんな連携に広がっていくのではないかとこのように思います。

そういう意味で、きょうのこの場を皆さんと共有しながら、またこれからも力を合わせて、宇治田原町も頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

松本笠置町長、お願いいたします。

○松本 勇笠置町長 失礼いたします。

本日のテーマ、未来をつむぐ「明日の京都」ビジョンということで、我が笠置町はどういった役割を果たすことができるんだろうか、先ほどから考えておりました。

旧相楽郡は、西と東の格差というのが非常に大きいところであります。私ども笠置町は、東の山の中にあるわけでありまして。その中の山の中の私ども笠置町は、相楽郡の中でどういった役割を果たすことができるのだろうと考えましたときに、東側の笠置町は、まず癒しを提供できるのではないだろうか。緑と森、そして新鮮な空気、水を提供できる大きな仕事、大きな役割を果たすことができるのではないかな。そして古い歴史、天然温泉、水辺に親しむことのできるいやしをまず提供していきたい、そんなふうに考えております。そういった役割を今後十分果たすべく努力をいたしていきたいと考えます。

私も、1年余りの一番新しい新米町長でございます。これから勉強ばかりでございますが、よろしく御指導いただきたいと思います。

ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

堀和束町長、お願いします。

○堀 忠雄和束町長 和束町長の堀でございます。本日は、本当に御苦労さまでございます。

この山城地域というのは、京都市を除いて、いわゆる7割の人口を占めている。そして、京都の北の一つの市よりは狭い。こういう地域の中に、非常に都市が進んでいるところ、さらに将来の学術研究都市を目指しておられるところ、または昔からの歴史のある都市として発展されてこられたところ、そして私たちのように宇治茶の面積の半分を、京都府下ですけれども、半分を占めている農村空間として地域づくりをしているところ。これ、いずれが欠けても、先ほど石井市長の話じゃないですけれども、この地域はだめになる。私たちは、農山村というところの大事な地域だというふうに位置づけながら、これからもまちづくり、元気な農山村を目指していきたいな、このように思っているところでございます。

ただ、先ほど、山城地域は人口がふえていく地域だというのは、まくら言葉のように、最初の言葉のあいさつに、どなたにも入ってくるわけなんです。相楽郡の、先ほど笠置町長のごあいさつじゃないですけれども、東部はいずれも少子・高齢化が進み、人口の減少が著しい地域であるわけであります。しかし、皆さんに忘れられないように、一つの町村ではなかなかできない。合併は、先ほど知事さんのお話じゃなかったですけれども、合併はできなかった。だからと、何もやらないというわけにはいきませんので、東部で一緒にやれるものをやろうということで、今、連合という組織を立ち上げて、今、手仲村長が連合長でお世話になっておるわけなんです。そういう地域づくりをやっているわけです。

そういう意味で、今後ともこうした地域も大事な地域でありますので、範囲も山城地域は、先ほど言いましたように、北の一つの市より狭いわけですから、これがネットワーク化していこうというのが大事であります。

ただ、和束町は、先ほど奥田町長が、よその町村とも連携という話ですけれども、よその宇治田原町へ行くにも、やはりこれは犬打峠を越えなきゃならない。そして、連合ということで笠置町へ行こうと思うても、木屋峠を越えなきゃならない。

過日の京都新聞見たら、安心・安全な地域で孤立化する地域は、和束町は全域がなると、

こういうことを紹介されましたら、非常に和束町の住民も不安なところがあるんですが、今、一生懸命、府の知事さんの方へお願いし、まず、やはり峠を越えて、連携できるような右岸の地域が一つになれるように、今、宇治木屋線の要望等上げて頑張ってくださいとところでございます。

そういう意味で、今後ともこの右岸地域の元気なところを発信していきたいと思っておりますので、ひとつ皆様方の御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

それでは、最後に手仲南山城村長、お願いいたします。

○手仲圓容南山城村長 最後でございます。時間がもう4時を回っておりますので、手短に話をさせていただきたい。

皆さん御承知のように、きょうの資料にもありますように、一番南の端っこの南山城村ということでございます。

先ほど、笠置町、和束町からも出ましたように、この3町は過去10年間に4分の1ほどの人口が減っております。南部と言われる南山城地方で、この3町だけが人口が減っております。村の方も4,000人あった人口が、今は3,000人になってきております。

この原因は何かということになりますと、やはり仕事をする場所がないと。若者が仕事を求めて外に出ていってる。農山村であります。そういうことで細々と暮らしております。しかし、宇治茶の産地というところでは、和束町と南山城村合わせますと、宇治茶の80%を生産しております。それで南山城村では、煎茶でいきますと50%以上、生産をしておりますし、京都府の品評会では、9年連続の産地賞、1等賞を取っておりますし、ことしもまたいただきまして、10回目連続でいただいたところでございます。

いいお茶のできるとこということでございますので、どうか京都府の宇治茶を基本に、京都府を売り出すということであれば、和束町、南山城村は、これは捨ておけない立場の地域でございます。どうかこの辺も京都府の発展になるように、これからも京都府の計画の中に一句入れていただいて、この宇治茶を守る里をこれからも皆さんとともに御指導いただきながら進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

最後になって、もう1点、今、和束町長からありましたけれども、連合を立ち上げているということで、とりあえず教育委員会を3町で一本化しました。教育長を1人、19人お

った教育委員さんを5人、職員も3町村をそれぞれまとめまして、現在 12 人で教育委員会の職員をやっております。効率よく運営をしていっているところでございます。

今後、何をするんかということで、いろいろともにやれるところ、当面ごみ処理の問題とか、あるいはまた地域おこし、産業についても一緒にやっていこうという話をしておるんですが、当面、ことし4月発足したばかりでございますんで、3町力を合わせて、弱い者は弱い者同士力を合わせて、今、取り組んでいるところでございます。今後ともよろしくお願いを申し上げます。

○司会 ありがとうございます。

各市町村長の皆様、ありがとうございました。

それでは、最後に山田啓二京都府知事から、本日の「府民交流会 in 山城」のまとめをお願いいたします。

○山田啓二知事 きょうは、本当にありがとうございました。

さまざまな問題が出されましたけれども、多分、質問された皆さんも、2分じゃ本当に言いたいことは言えないよという思いをお持ちでしょうし、結局、発言できなかったという方もたくさんいらっしゃると思います。私も多分2分じゃ答えたいことも十分に答えられないよという思いもあります。

じゃあ、この会はそれで中途半端なものだったのかということ、私はそうではないと思っています。きょうは、ここからがまず「明日の京都」ビジョンの出発点だと思っています。こうして大勢の皆さんが心一つにして、この京都の山城地区の未来を考えることができた。この気持ちを持って、ぜひともこれからたくさんの意見を京都府にお寄せいただきたいと思っています。

きょうは、15 の市町村長さんもいらっしゃいます。その市町村長さんにお話をさせていただくのも、大変、私は有効だと思っておりますし、多くのきょうは府議会議員の先生も見えていらっしゃいます。こうした方々を通じて、またぜひとも意見をお聞かせいただきたい。さらに、京都府のホームページでも、直接、皆さんの意見をお聞きする仕組みをつくっておりますので、ここをスタートとして皆さんの意見をぜひともたくさん寄せていただきたいと思っています。

今、市町村長さんからお話がありましたように、山城地区というのは、ある面ではこの国の縮図のようなところがあります。過疎・高齢化で悩んでいる地域もあれば、人口がふえ

ていて、将来に向かっていろんな面で進んでいる地域もあります。そして道路の事情、鉄道の事情をとりましても、さまざまな問題を抱えている地域であります。この地域があすに向かって進むことができれば、京都も日本も、そして世界に向かって我々は発信していける大きな可能性を持った地域だというふうに思っております。

そのためにも、だれかに言われて未来をつくるのではなく、ましてやマスコミに言われて未来をつくるのではなく、皆さんの一つ一つの夢を、ここにいる全員が共有しながら未来にしていく、そういうビジョンを私はつくっていきたいと思います。

先ほどお話がありましたように、きょうも下海印寺地区の山本さんとか、古川を美しくする会のボランティアの皆さんとか、一人一人の府民の皆様が本当に素晴らしい活動をしていただいています。こうした活動を我々は支えていきます。ぜひとも、あすの未来の京都のために、皆さんとともに進んでいきます。そのためにも温かい御協力を心からお願い申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。

○司会 これをもちまして、「未来をつむぐ『明日の京都』ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 山城を」終了させていただきます。

長時間にわたり、皆様、どうもありがとうございました。

それでは、ステージの皆様が退席されます。ありがとうございました。

各市町村長の皆様、山田知事、竹葉座長さん、土山委員さん、多胡さん、そして会場の皆様、ありがとうございました。

皆様に3点ほどお知らせがございます。最後聞いてくださいね。

まず1点目、アンケート用紙に御協力をお願いします。きょうは発言ができなかった、あるいは発言が足りなかったと思っておられる方は、このアンケート用紙に御意見を御記入いただきますようお願いいたします。筆記用具は、受付に用意しております。アンケートをお帰りに回収箱にお入れください。

二つ目のお知らせでございますが、ロビー・ホワイエにおきまして、多胡さんの作品を展示しております。木のぬくもりを感じさせる温かい、子供さんから熟年の方、お年寄りまでが手に取ることができるおもちゃを展示即売されております。多胡歩未さんの作品をロビー・ホワイエに置いておりますので、どうぞご覧ください。

そして最後のお知らせなんですが、チラシにも書いてございますが、本日の様子を8

月 27 日木曜日、8月の終わりでございます、テレビで放映されますので、どうぞ心にとめておいてくださいね。8月 27 日木曜日の午後9時 50 分から、KBS京都テレビの番組「旬感☆きょうと府」で放送いたします。皆さんの顔が映っているかもしれませんので、ぜひごらんください。

本日は、長時間にわたり最後まで御参加いただきまして、ありがとうございました。

どうぞ傘などのお忘れ物がございませんよう、お気をつけてお帰りください。

きのうは5本ほど傘のお忘れ物ございましたので、どうぞ皆様、お忘れ物のごさいませんよう、お気をつけてお帰りくださいませ。

本日はどうもありがとうございました。